

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
成人老年看護援助論Ⅲ		NSP33_004	必修	1	3	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一郎 他		414	k.sano	授業実施日の 12:10~13:00		
授業の目的・概要	この講義は、リハビリテーションの概念・目的および各期（急性期、回復期、生活期）におけるリハビリテーション看護について学ぶ。国際生活機能分類（ICF）を活用し、リハビリテーションを必要とする対象の全体像をつかむことを学ぶとともに、リハビリテーションにおける多職種連携、病院・地域連携、対象者および家族への援助について、グループワーク・ディスカッションを行い、考察を深める。					
授業形式・方法	✓対面授業 □遠隔授業（双方向型） □遠隔授業（自主学习）	✓講義 □演習 □実習 □実技	□PBL □反転授業 ✓ディスカッション・ディベート ✓グループワーク□プレゼンテーション□実習・フィールドワーク □その他（ ）			
学習上の助言	リハビリテーションを必要とする主な疾患について、疾病治療論や成人看護学援助論・老年看護援助論で学んだ内容を復習しておくこと。また、授業内容に対する質問があれば、リアクションペーパーなどを活用して積極的に疑問を解決すること。					
教科書	ナーシング・グラフィカ成人看護学(5):リハビリテーション看護(第5版)/編:石川ふみよ/メディカ出版/2024					
参考書	国際生活機能分類ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか(第2版)/著:上田敏/萌文社/2005					
外部教材						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	リハビリテーションの定義、リハビリテーション看護の役割・機能を説明できる。			NS (1),(2),(3),(4),(5)		
②	リハビリテーションを必要とする障害に対する医療・看護の要点を説明できる。			NS (1),(2),(3),(4),(5)		
③	ICF の構成要素を理解し、ICF の枠組みを用いたアセスメントが実践できる。			NS (1),(2),(3),(4),(5)		
④	リハビリテーションを必要とする人とその家族に対し、生活の再構築を目指した看護計画を立案することができる。			NS (1),(2),(3),(4),(5)		
⑤	リハビリテーションに関わる専門職と看護の連携・協働について考察することが出来る。			NS (1),(2),(3),(4),(5)		
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	リハビリテーションの定義・歴史と、リハビリテーション看護で用いる主要概念を学ぶ。		講義	ICIDH、ICF について教科書で確認する。		1
2	リハビリテーション看護を必要とする代表的な疾患と、急性期・回復期・生活期の看護について学ぶ。		講義	急性期・回復期・維持期を教科書で確認する。		1
3	生活機能障害のリハビリテーション看護を学ぶ。（1）		講義	摂食嚥下障害について教科書で確認する。		1
4	生活機能障害のリハビリテーション看護を学ぶ。（2）		講義	排泄の障害について教科書で確認する。		1
5	生活機能障害のリハビリテーション看護を学ぶ。（3）		講義	高次脳機能障害について教科書で確認する。		1
6	発達段階別のリハビリテーション看護について学ぶ。		講義	高齢者のリハビリについて調べる。		1
7	ICF の枠組みを用いた対象理解について学ぶ。		講義	ICF の構成要素とその内容を教科書で確認する。		1
演習			1			
9	ICF の枠組みを用いた看護の展開について学ぶ。		講義	ICF を用いた看護計画について教科書で確認する。		1
演習			1			
11	生活の再構築を目指した看護について学ぶ。		講義	生活の再構築について教科書で確認する。		1
演習			1			
13	チームアプローチの実際とリハビリテーション看護における看護師の役割について学ぶ。		講義 演習 GW	リハビリテーションに関わる専門職について教科書で確認する。		1
14						1
15						1
試	達成度評価・評価ポイントを参照					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

達成度評価								
総合評価割合（％）			試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
			80	15	5	0	0	100
総合力指標	知識・技術力		60	5	0	0	0	65
	思考・推論・創造する力		20	5	1	0	0	26
	協調性・リーダーシップ		0	0	1	0	0	1
	発表・表現伝達する力		0	0	1	0	0	1
	コミュニケーション力		0	0	1	0	0	1
	取組みの姿勢・意欲		0	2	1	0	0	3
	問題を発見・解決する力		0	3	0	0	0	3
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法	
試験	①	☒	定期試験の範囲は講義全体を対象として出題し、80 点満点とする。知識・技術力を中心に評価する。					試験後に試験問題と解答についてコメントを行う。
	②	☒						
	③	☒						
	④	☒						
	⑤	☒						
レポート	①	☒	講義内で課される ICF を用いた看護過程について提出されたものを総合的に評価する。看護過程の展開に必要な知識、技術、思考、推論、看護援助の方向性を見出す力を中心に判断する。					授業の中で看護過程の要点をフィードバックする。
	②	☒						
	③	☒						
	④	☒						
	⑤	☒						
成果発表	①	☒	グループワークの過程と発表の内容を総合的に評価する。					授業の中でフィードバックする。
	②	☐						
	③	☐						
	④	☒						
	⑤	☒						
ポートフォリオ	①	☐						
	②	☐						
	③	☐						
	④	☐						
	⑤	☐						
その他	①	☐						
	②	☐						
	③	☐						
	④	☐						
	⑤	☐						
備 考								
他 担 当 教 員	吉岡睦世							
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は病院の看護師として 15 年の実務経験を有しており、他の教員も看護師として豊富な臨床経験を有する。							
実 践 的 授 業 の 内 容	実務経験のある教員のもと、リハビリテーションを要する人と家族への看護の実践を学ぶ。							
そ の 他	この講義は、今後の社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。教員が示す授業方法を遵守すること。毎回の講義内容を、配布資料と共に復習すること。また該当する教科書の範囲を予習し、基本的な内容を理解した上で講義に望むこと。授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用は、指示があった場合を除き禁止する。							